

## 全国生協の募金、能登復興へ約8,100万円を石川県へ

### 日本生活協同組合連合会 石川県生活協同組合連合会

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連、代表理事会長：新井ちとせ）と石川県生活協同組合連合会（略称：石川県生協連、会長理事：大谷学）は、2026年6月2日、石川県「能登復興応援基金」への寄付として約8,100万円を石川県に贈呈しました。贈呈式は同日、石川県庁にて行われ、日本生協連代表理事会長の新井ちとせから、山野之義石川県知事に目録を贈呈しました。

コープ被災地支援センターは、令和6年能登半島地震および奥能登豪雨の被災者・被災地を支援するため、全国の生協とともに息の長い支援活動に取り組んできました。2025年度は「どこよりも長く、きめ細かく寄り添って」をスローガンに募金を呼びかけ、全国36生協から約1億2,300万円の募金が寄せられました。2024年度の募金と合わせた総額は23億2,600万円となります。

※コープ被災地支援センターは2024年1月1日の震災後、全国の生協と共に地域の行政や団体とつながりながら被災地を支援することを目的に、石川県生協連の下に生活協同組合コープいしかわ・日本生協連で立ち上げ、全国生協の協力をいただきながら被災地支援の取り組みを進めています。



左から 石川県生協連 吉本専務理事、日本生協連 新井会長、石川県 山野知事、石川県生協連 大谷会長理事、石川県生協連 濱上副会長理事



贈呈式での懇談の様子

2026年度も、全国の生協・組合員とともに、引き続き「どこよりも長く、きめ細かく寄り添って、そして支援から共創へ」をスローガンとし、被災地の皆さまに寄り添った支援活動に取り組んでまいります。

＜お問い合わせ先＞  
日本生協連広報部  
TEL：03-5778-8106

## <ご参考>

### 募金活用の概要

No.	概要	金額（円）
1	石川県「能登復興応援基金」 復興支援事業への寄付	81,229,742
2	コープいしかわの支援活動 ・ボランティアバス・サロン活動・合同炊き出し ・ピースコンサート、収穫体験、つな♥のと旅企画等の招待企画 ・「能登半島支援活動助成制度」での活用 等	12,716,968
3	富山県生協連 ・2026年度も引き続き取り組む、氷見市社会福祉協議会の引越し支援等 ・引き続き復興支援に取り組む6団体への寄付	1,100,000
4	石川県社会福祉協議会への寄付 ・県社協・市町社協での支援活動	5,000,000
5	支援団体等（14団体等）への寄付 ・2025年度中にコープ被災地支援センターの取り組みを通じて新たにつながりができたり、現在も継続してつながりつづけている ・2026年度も能登半島支援を続け、募金の活用先となる団体への寄付	14,000,000
6	コープ被災地支援センターの取り組み ・SNS「のとnote」関連費用。地元ライターへの取材・記事作成委託 ・「つながる力で能登を笑顔にアクション」運営の費用の一部 等	9,113,265
	合計	123,159,975

#### 【コープいしかわの支援活動】

定期的にボランティアバスを運行し、組合員ボランティアと共に能登エリアでの炊き出しやサロン活動、能登復興応援クリスマスピースコンサート、親子の収穫体験企画など、能登の皆さんの笑顔につながる取り組みを行いました。そして、地域で活動する団体への支援として「能登半島支援活動助成」を実施しています。また、お買い物にお困りの方を支援するため、奥能登3市3町での「宅配手数料無料支援」などを継続して実施しています。

#### 【コープ被災地支援センターの取り組み（全国生協と共に）】

「つながる力で能登を笑顔に（つな♥のと）旅」企画：

被災された能登の生協組合員、住民の方を対象に、全国の生協がそれぞれの地域にご招待する企画です。長い避難生活で疲れた心と身体を癒していただき、人と人とのつながりをつくることを目指して全国10生協が取り組みました。

社協（社会福祉協議会）×生協 協働企画：

広域避難者を対象に見守りを行う県南9市町の社協に、14生協の協力によりメッセージを添えたプレゼント品を1,659セットお届けし見守り活動やサロン活動に活用いただきました。被災10市町の社協と15生協をマッチングし、現地で必要な物資を順次提供しました。

被災地の現状を知り、息の長い支援につなげる取り組み：

2025年9月に「つながる力で能登を笑顔にアクション」を開催し全国45生協・団体から生協役職員・組合員185人が集い、現地での学習やフィールドワークを通じた交流を行いました。また、年3回、生協役職員・組合員向けに「つながる力で能登を笑顔にミーティング」を開催し、被災地の状況や各生協の取り組みを共有しました。

社会的発信の取り組み：

時が経つにつれ報道が減る中でも被災地の情報を継続的に社会に発信するため、SNS「CO・OPのとnote」を開設・運用しています。リンク [CO・OP のとnote~ | note](#)